

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスSOU NEXT志真志 (2単位)		
○保護者評価実施期間	令和 8年 2月 18日	～	令和 8年 2月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数) 13件
○従業者評価実施期間	令和 8年 2月 18日	～	令和 8年 2月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7件
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 27日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者評価および自己評価において、個別支援計画の説明、内容の適切性、計画に沿った支援の実施に関する項目で高評価が多く見られることから、支援計画の作成から実施までが一貫して機能していることが強みである。支援の方向性が職員間で共有され、安定した支援提供ができていますと分析される。	児童一人ひとりの特性や発達段階に応じたアセスメントを丁寧にいき、保護者とのモニタリングや面談を通してニーズを把握した上で個別支援計画を作成している。計画作成後は職員間で読み合わせを行い、支援方針を統一し、計画に沿った支援を日々実施している。また、支援終了後には必ず振り返りを行い、支援の質の向上に努めている。	アセスメント内容のさらなる精査や記録の分析を強化し、より具体性の高い支援目標の設定を行うとともに、専門的視点を取り入れた支援の質の向上を図っていく。
2	連絡体制、相談対応、説明責任に関する項目で高評価が多く、自由記述においても肯定的な意見が見られることから、保護者との信頼関係が十分に構築されていると考えられる。安心して利用できる事業所として評価されている点は大きな強みである。	日々の朝礼・終礼を通して情報共有を徹底し、PDCAサイクルを意識した業務改善を行っている。職員面談やミーティングの機会を設け、職員間で意見交換を行いながらチーム支援を実践している。また、保護者との連絡帳や面談を通じて、子どもの状況を丁寧に伝え合い、信頼関係の構築に努めている。	保護者からの意見やアンケート結果をより具体的な改善計画へ反映させ、可視化できる形でフィードバックする仕組みづくりを強化していく。
3	「子どもが楽しく通っている」「安心して通所できている」といった項目で高評価が集中していることから、児童が心理的に安定して過ごせる環境が整備されていることが読み取れる。総合満足度の高さも、本事業所の安定した運営体制を示す強みである。	児童が安心感をもって通所できる環境づくりを最優先とし、共感的な関わりを大切にしている。活動プログラムについては固定化しないようチームで検討し、段階的に成長を促せる内容や季節に応じた活動を取り入れている。その結果、保護者評価においても高い満足度を得ている。	児童の主体性や自己決定の機会をさらに増やし、成功体験を積み重ねられる支援内容の充実を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流や外部との関わりに関する項目において「どちらともいえない」という回答が一定数見られることから、地域連携の取組が十分に実感されていない可能性がある。交流機会の量または周知方法に課題があると分析される。	地域の放課後児童クラブや児童館等との交流機会が限定的であり、地域との関わりが十分に周知・実感されていないことが要因と考えられる。	近隣公民館等の地域イベントへの積極的な参加や、地域住民を招いた事業所行事の企画を行い、交流機会を増やす。また、その取組内容を保護者へ発信し、可視化を図る。
2	事故防止・緊急時対応等の項目において、一部評価のばらつきが見られることから、取組自体は行われていても、保護者への周知が十分でない可能性があると考えられる。	事故防止マニュアルや緊急時対応マニュアル等は整備し訓練も実施しているが、保護者への周知や説明が十分に伝わっていない可能性がある。	保護者会や契約更新時等にマニュアル内容や訓練実施状況について改めて説明を行い、文書配布や掲示等により周知徹底を図る。
3	第三者評価の実施状況に関しては未実施であり、外部視点を取り入れた客観的評価の仕組みが十分ではないことが課題として挙げられる。	第三者による外部評価を実施しておらず、外部視点からの評価を業務改善へ活かす仕組みが十分ではない。	今後、外部評価の導入を検討するとともに、内部監査の質を高め、客観性を持った業務改善体制の強化を図る。